

ハヤカワ新書

TAKE
FREE

ご自由に
お持ちください

早川書房

創刊記念
ガイドブック

未知への扉をひらく

早川書房はこれまで、
主に海外で議論されている未知の知見や、
SF・ミステリといった未知のジャンルを
いち早く日本に紹介してきました。
日本の著者による書き下ろしを中心として
この度創刊するハヤカワ新書もまた、
「未知への扉をひらく」レーベルで
ありたいと思っています。

私たち自身、ハヤカワ新書の
企画・編集を通じて、
世界はこんなにも謎と驚きで満ちているのだと
あらためて実感する日々です。
読者の皆様とそれを共有できたら、
これほど嬉しいことはありません。

ハヤカワ新書 編集長 一ノ瀬翔太



ハヤカワ新書

3カ月連続刊行!

《6〜8月刊ラインナップ》

● NFT電子書籍付版も刊行

NFT

電子書籍付版を
同時発売

6

6月20日発売

● 001 名作ミステリで学ぶ英文読解
(文芸翻訳者) 越前敏弥

● 002 古生物出現! 空想トラベルガイド
(サイエンスライター) 土屋健

● 003 馴染み知らずの物語
(モデル) 滝沢カレン

● 004 現実とは? 脳と意識とテクノロジーの未来
(脳科学者) 藤井直敬

● 005 教育虐待 子供を壊す「教育熱心」な親たち
(作者) 石井光太

NFT電子書籍とは

本篇と同内容の電子書籍をNFT化。スマートフォンの「FanTopアプリ」上で快適にお読みいただけます。NFT電子書籍はFanTop上で売買・譲渡することもできます。作品によっては、追加のテキストや動画、音声、画像などの限定コンテンツを収録。

未知への扉をひらく、新しい読書体験を提供します。

7

7月19日発売予定

● 006 ソース焼きそばの謎
(焼きそばライター) 塩崎省吾

● 007 脱優等生のススメ
(慶應大先端研初代所長) 富田勝

● 008 日本庭園をめぐる
(デジタル・アーカイヴの可能性) 原瑠璃彦

● 009 ChatGPTの頭の中
(理論物理学者) スティーヴン・ウルフラム

● 010 かたちには理由がある
(プロダクトデザイナー) 秋田道夫

● 011 2020年代の想像力
(評論家) 宇野常寛

● 012 原爆初動調査隠された真実
NHKスペシャル取材班

ロゴ・カーデザイナー 佐々木俊

8

8月22日発売予定

※ラインナップは
変更になる可能性があります。
2023年8月以降は隔月刊となります。

著者の越前敏弥さんは、エラリー・クイーンやダン・ブラウン（『ダ・ヴィンチ・コード』シリーズ）など、数多くの傑作ミステリを翻訳して日本に広めてこられた方です。越前さんの本業であるミステリを扱った英文読解本を考えた、この2つを掛け合わせた企画を打診したのがこの本のきっかけです。

英語を勉強した多くの人が実感していると思いますが、英語を読む時には

（日本語の場合とは違った）論理的

な思考が求められます。巨匠と

呼ばれて多くの読者に愛されてき

たミステリ作家が紡いだ文章は、緻

ミステリ小説の英語の特徴を一つ挙げれば、仮定法が多いことでしょう。「もし彼女が犯人だったら、きっと〇〇するだろう」といった「もしも」の文章を連ねてストーリーを組み立てていく構成は、ミステリならではです。

でも、英語を勉強した皆さんが共感してくれているんですが、仮定法って難しいですよ！ この本では描かれた情景が浮かびやすい例題を並べているので、意識しすぎずに仮定法を理解できるような、心強い助けになると思います。行間を読んで話の展開を推理することも上達するかもしれません。

英語力の目安としては、大学受験レベルの英文法を想定しています。学び直しをスタートしたい方にも、今より上の英文読解を目指したいという方に

担当編集者が語る
新書創刊の舞台裏

読解力と謎解き力を磨く

名作ミステリで 学ぶ英文読解

名作ミステリの英文を精読し、読解力と謎解き力を鍛えよう。巨匠たちのクリアな原文を取り上げ、読解ポイントを丁寧に解説。翻訳の裏話や映像化作品紹介などのコラムもはさみ、推理小説の新たなガイドとしても最適。

密でクリアな英語です。まさに打つつけの題材を通して論理的に読解のセオリーを学べるように、意識して本づくりをしました。

現代英語を理解するためならニュース記事でいいのでは？ と思う方もいるかもしれないですね。でも、ミステリ作品には必ずストーリーの山場やオチがありますから、好奇心をキープするのに最適です。さらに「ミステリ作品で展開される推理は一つのプレゼンテーションである」という言い方がありません。プレゼンには説得力ある文章が必要ですから、そういう力を養うためにミステリ作家との駆け引きを論理的に読み解いてほしいですね。

も最適です。古典をもっと深く知りたいたいというミステリ・ファンにも手に取ってもらいたいですね。

この本で初めて原文を読んで、「こんな英文から日本語訳小説が生まれているのか！」と驚く人もいるでしょう。翻訳家・越前さんならではの巧みさも存分に伝わると思いますので、翻訳作業を追体験してもらえたらうれしいです。翻訳の裏話や映像化作品の紹介など、様々な楽しみ方もコラムとして収録しています。「ここからネタバレ」の注意書きもわかりやすく表示していますので、未読の作品を読むためのブックガイドにもなるのではないのでしょうか。この『名作ミステリで学ぶ英文読解』を読んでから小説を読み直せば、きっと新しい発見があるはずですよ！

著者メッセージ

英文を正確に読み解くことと
ミステリの謎解きはよく似ています。
この本で両方を堪能してください。

Profile 越前敏弥（えちぜん・としや）／文芸翻訳者。1961年生まれ。留学予備校講師などを経て30代後半にミステリなどの翻訳の仕事をはじめ。訳書にクイーン『災厄の町（新訳版）』、ハミルトン『解錠師』（以上、早川書房）、ブラウン『ダ・ヴィンチコード』など多数。著書に『文芸翻訳教室』『翻訳百景』など。

ハヤカワ新書の企画立ち上げの話
が出た際に、書き手として即座に頭
に浮かんだのが土屋健さんです。
土屋さんが手がけた「リアルサ
イズ古生物図鑑」シリーズは、
「もしも古生物が現代に生
きていたら？」という視
点で工夫がこらされてい
て、ビジュアルはもちろ
んのこと、説明文も実に
面白いんです。勉強や学
問としてだけでなく「エン
ターテインメント」の
かたちで科学の醍醐味を伝
えることができる方だと思
いました。コロナ禍が続いて旅行
もままならない時期に、「古生物を
巡る仮想のトラベルガイドを作れな

担当編集者が語る
新書創刊の舞台裏

古生物との旅を楽しむ

古生物出現！ 空想トラベルガイド

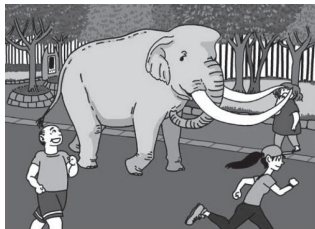
もしもナウマンゾウやカムイサウルスが現代の日本を
闊歩していたら？ 架空のガイドブックを通して、古
生物天国・ニッポンの魅力を味わい尽くす。
あなたもこの本を手にとって、古生物
と触れ合う旅に出てみよう！

いだろうか？」という提案を土屋
さんに打診したところ、すぐにOKの
返事をいただきました。

たとえば、本の「はじめに」には、
現代の東京・日本橋に出現したナウ
マンゾウのために交通整理をする
警察官が登場するシーンの描写
もあります。一見突拍子もない
ようなアイデアを次々と出して
くれるのが土屋さんの魅力です。

この本の特色を一言で伝える
なら、「if（もしも）」の世界
を想像する面白さですね。頭のな
かで想像をふくらませる楽しさを手
軽に提供できるのは、手に取りやす
い新書の強みです。読者の方はきつ
と想像のなかで、生き生きと動き回

る古生物の迫力やかわいさを「体感」
できると思います。さらに、古生物フ
ァンがこの本を携えて日本各地に旅行
に出てくれたらと願っています。この
本にも登場するある博物館がコレクシ
ョンする珍しいアンモナイトの化石を
見るために、北海道まで足を運ぶフ
ァンもいるそうです。この本もそういっ



イラスト/谷村 諒

ナウマンゾウと散歩、 潜水艇でアンモナイト見物、 スピノサウルスとお食事タイム！

た「聖地巡礼」の後押しになれたらう
れしいですね。訪問先の博物館で化石
を見るのももちろんのこと、本で紹介
する古生物出現スポットや実際の景色
を眺めながら、「もしも今この湖にク
ビナグリユウが出現したら？」などと
想像をふくらませるのも楽しいかもし
れません。「心が豊かになる旅」にな
るのではないのでしょうか。
「かつて日本に棲んでいた古生物が現
代に復活したら？」という設定はあく
までもフィクションですが、それ以外
の内容はどれも、国内外の論文や全国
各地の博物館の연구원の方に協力い
ただいて得た最新研究情報に基づいて
います。（空想篇）（種明かし篇）と分け
ながら展開しますが、どちらも存分に
楽しんでもらえると思います。

著者メッセージ

日本は魅力的な古生物で溢れている！
全国の博物館関係者の“推し”を
各地域の見所とともにご堪能ください。

Profile 土屋 健（つちや・けん）/サイエンスライター。2003年金沢大学大学院自然
科学研究科博士前期課程修了。修士（理学）。科学雑誌「Newton」編集記者、部長代理を
経て、オフィス ジオハレオント代表。「リアルサイズ古生物図鑑 古生代編」や「生物ミステ
リー」シリーズなど人気著作多数。2019年、日本古生物学会貢献賞受賞。

この本は、本の情報サイト「好書好日」での連載がベースになっています。二〇一八年にサイトを新しく立ち上げる際に、看板となる連載執筆者を探していて、真

っ先に浮かんだのが滝沢カレンさんでした。滝沢さんがメディアで話したりSNSで発信したりする言葉はその頃から注目されていて、独特の言葉づかいの面白さを活かして読書にちなんだ連載をしていただけたら——と考えたのがきっかけです。

でも実は、すぐによい返事はもらえなかったんです。というのも、滝沢さんがおっしゃるには、「読書

計15話あります。ゾツとするような怖ろ話もあれば、ハートウォーミングな話、青春ものの、ミステリやSFテイストのものなど、一冊のなかにいろんな味わいが詰め込まれています。

切なくて、滝沢さんが泣きながら書いたというのは『あしながおじさん』（ジン・ウチェスター）『妻が椎茸だったころ（中島京子）』。仰天するような結末が待っているのは『号泣する準備はできていた（江國香織）』でしょうか。オリジナル作品の解説もあるので、他にはない「ブックガイド」としてもオススメです。読者の方には気に入った物語をSNSなどで教えていただきたいですね。

物語の展開はもちろん、文章一つひ

担当編集者が語る
新書創刊の舞台裏

見たことのない物語の世界へ

馴染み知らずの 物語

カフカ『変身』や与謝野晶子『みだれ髪』、カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』が大変身。古今東西の名作のタイトルをヒントに、新しい物語を展開。オリジナルを知らない人も楽しめる一冊です。

は好きだけど、一文読むだけで自分の想像のほうに先にとんどん広がつてしまつて、なかなか読み進めることができない。じゃあそれを逆手にとつて、滝沢さん流の物語を作つてしまふのはどうだろうと再提案して、実現しました。

連載は、編集部から本のタイトルとストーリーに関するヒントをお題として、そこから滝沢さんがまったく新しい物語を紡ぐ、という形で進めてきました。人気連載として四十数話蓄積された中から、傑作14話を収録したのが本書です。早川書房のベストセラー『ザリガニの鳴くところ（原作：ディリア・オーエンズ）』を元に滝沢さんに書き下ろしてもらつた物語を含め、

とつを取り上げても、フレッシュな表現を味わつていただけたらと思います。

「強気にも強気な雨が地面に到着し始めた」 「頭の中が服いっぱいの洗濯機みたいにこんがらがる」 「コモロウはタライみたいに笑つた」——ちょっととした比喩にも滝沢さんのユニークな感性が込められていますし、モノの擬人化もごく自然に登場します。登場人物や地名のネーミング・センスにもご注目いただきたいです。

短篇ですからも読めますし、移動中の電車などすきま時間に一篇だけ、という読み方ができるのもいいところ。「本を読みたいけど、どんなジャンルの本がいい？」という方に手に取っていただければと思います！

著者メッセージ

ただ書くことが好きです。
ただ、物語を考えることが好きです。
そんな私にとって夢みたいな一冊を作らせていただきました。

Profile 滝沢カレン（たきざわ・かれん）／モデル。1992年東京生まれ、2008年モデルデビュー。現在は雑誌「Oggi」専属モデルなど活躍。「沸騰ワード10」「行列のできる相談所」「全力！脱力タイムズ」などTV出演も多数。朝日新聞社のウェブサイト「好書好日」で連載中。著書に「カレンの台所」。

「目の前にある現実とは、果たして本物?」「そもそも現実ってなんだろう?」

こうした疑問を多角的に見つめ直すのが本書です。脳科学者の藤

井直敬さんが主宰する「現実

科学ラボ」では、テクノロジー

によって作られる人工的

な現実と天然自然の現実

とについて、各界の有識

者と語り合う刺激的な対

談を続けています。

藤井さんは本の冒頭で

「現実がフィクションよ

りつまらない時代は終わっ

た」という言葉に続けて、

「現実科学」という学問を人文

科学や社会科学のように一つの学問

として立ち上げるべきだと語ります。

担当編集者が語る
新書創刊の舞台裏

あなたが見ているのは、本当に現実?

現実とは?

脳と意識とテクノロジーの未来

現実って何? この一見当たり前すぎる問いに、各界の俊英が出した八者八様の答えとは。脳に気づかれることなく「現実」を操作できるようになった現代。科学と哲学の融合した「現実科学」がここから始まる。

新しい研究分野がこれから始まっていくワクワク感がありますよね。様々なジャンルの知見と脳科学とのあいだで展開する知の「異種格闘技」のような趣も、この本の大きな魅力です。

即興で広がるトークセッションを「活字」に固定していくことで、新たなキーワードや意外なつながりも見えてきました。例えば、映画「マトリックス」にも出てきた「現実の裂け目」はどこにあるのか? という話題について、異なる専門分野の方が同じような話をしているのは面白いポイントです。人工と自然、西洋と東洋、対立する概念がどこかでつながっていくような瞬間もあります。

「これって現実で起きたことだっけ?」と思うような体験は、誰にでも起こる普遍的な疑問。それに答えよう本だと思えます。

VR(仮想現実)やメタバースといった最新テクノロジーについて興味関心がある人はもちろんのこと、哲学のように自分の考えを揺さぶるものが欲しいという好奇心旺盛な人にもこの本をお薦めしたいですね。SF小説のネタになりそうな話題もふんだんに盛り込まれています。本書で話題にする作品や人名を一部挙げてみると、「攻殻機動隊」「インセプション」「夢十夜」から哲学者のラカンまで、本当に多岐にわたります。多くのクリエイターや学者が「現実と虚構の境界」とは何か、思考を重ねてきたことに改めて気づか

脳に気づかれることなく 「現実」を操作できる時代、 あなたにとって「現実」とは?

されました。この本を一言で括るならば「知の冒険の書」となるでしょう。皆さんもぜひ、ふだんの日常からちょっと踏み出して、違う現実世界に足を踏み入れてみてください。

収録対談(掲載順)

◎ 稲見昌彦 (東京大学教授 / インタラクティブ技術)

◎ 市原えつこ (メディアアーティスト)

◎ 養老孟司 (脳科学者)

◎ 暦本純一 (東京大学教授 / 拡張現実)

◎ 今井むつみ (慶應義塾大学教授 / 言語処理学)

◎ 加藤直人 (メタバース株式会社CEO)

◎ 安田登 (脳科学者)

◎ 伊藤亜紗 (東京工業大学教授 / 文学)

著者メッセージ

明日が見えない現実に向き合う
8人の俊英との対話集。
現実を科学しゆたかな世界を作るための起点。

Profile 藤井直敬(ふじい・なおたか) / 脳科学者。ハコスコ代表取締役社長、医学博士、XRコンソーシアム代表理事、ブレインテックコンソーシアム代表理事、デジタルハリウッド大学大学院卓越教授、東北大学特任教授。東北大学医学部卒、同大学院(博士)、MIT、理化学研究所脳科学総合センターなどを経て現職。著書に「つながる脳」(毎日出版文化賞受賞)など。

「教育虐待」という言葉は十数年前から盛んに取り上げられてきました。が、確固たる定義がありません。児童虐待防止法では四分類の虐待（①身体的虐待、②性的虐待、③ネグレクト、④心理的虐待）が定められていますが、「教育虐待」は含まれていません。改正児童虐待防止法施行で親による体罰は違法行為とされていますが、どこまでが熱心な教育で、どこからが虐待なのか——区分は曖昧で難しいのが現実です。この本を通して、教育虐待を現代日本の社会問題として確立する役割を果したいと考えています。

担当編集者が語る
新書創刊の舞台裏

ゆがんだ教育熱を生んだものは？

教育虐待

子供を壊す「教育熱心」な親たち

教育虐待とは、教育の名のもとに行われる違法な虐待行為。子供の脳と心をいかに傷つけるのか。受験競争激化から今に至るまでゆがんだ教育熱はどのように生じ、殺傷事件などの悲劇を生んだのか。親子のあり方を問う。

例えば「医学部9浪母親殺害事件」など特定の事例に焦点を絞っていますが、今回はそうした事件にも触れつつ、「虫の眼、鳥の眼」でいうときの鳥の眼＝俯瞰的なアプローチで迫ります。子供を傷つける言動の分類、医学的見地からみた、虐待が子供の脳に与える影響、社会の変化に伴い「ゆがんだ教育熱」の土壌がどう生じてきたのかという時代背景——様々な観点から一つの問題にアプローチし、現代社会の病理が凝縮されている教育虐待の全体の見取り図を描くことを主眼としています。

私自身も今回あらためて、「これ

も虐待に繋がるのか」「身近でそんな話を聞いたことが」と、目から鱗の事柄がありました。実際に虐待を受けてつらい思いをした人だけでなく、これから親になるという方にとっても、「もしかしらら意図せずに虐待してしまうかもしれない」という一つの示唆になるはずです。取材を通じて印象的だったのは、「親は子供のためによかれと思ってやっているのに、それが子供を傷つけてしまう」という胸が痛くなる事実。この両面性が問題をより複雑にしています。子供とのコミュニケーションを考え直すきっかけになればと思いますし、教育関係者の方々やこれから教師や保育士になりたいと考えている若い人にも、この問題について考えてもらいたいです。

勉強が終わるまでトイレ禁止、 無数の栄養ドリンク…… 子供部屋で何が起きているのか

この『教育虐待』に限らず、ハヤカワ新書は「今の時代をどう生きるか？」と問いかける作品をラインナップしていきます。かつてのように、いい大学に合格して企業に入って決まったレールに乗れば人生安泰——そんな時代でないことは、みんな気づいています。その中で、自分の生き方を主体的に見つけることはますます重要になるでしょう。教育は人間の主体性を育むことができますが、方法や状況によっては虐待に転じ、可能性の芽を摘み取ってしまう場合もある。これからの教育について社会全体で議論するために、その共通土台としてこの本を手

著者メッセージ

親の教育熱によって
魂を殺された子供たちの叫びから、
その歴史、社会構造、医学、そして回復にまで
踏み込みます。ご期待ください。

Profile 石井光太（いしい・こうた）／作家。1977年東京生まれ。国内外の貧困、災害、事件などをテーマに取材・執筆活動を行う。著書に『物乞う仏陀』『遺体』『鬼畜の家』『43回の殺意』『本当の貧困の話をしよう』『近親殺人』『ルボ 誰が国語力を殺すのか』など多数。2021年『こどもホスピスの奇跡』で新潮ドキュメント賞受賞。

未知への
扉をひらく



ハヤカワ新書



ハヤカワ新書 note マガジン

試し読みや著者メッセージ、
編集者インタビューなどを更新中!

早川書房

〒101-0046 東京都千代田区神田多町 2-2

TEL 03-3252-3111 FAX 03-3254-1550 <https://www.hayakawa-online.co.jp>